

試験地設定

(様式1)

区分指示

宮崎 営林署

開発課題	クスギ混交林施業法					期間	自56年度 至60年度	
開発目的	クスギ、クスギを混植し、いたけ原木の生産と間伐作業を組合せた合理的施業方法を確立する。(地元振興関連技術)							
設定	場所	営林署	担当区	国有林	林小班			
		宮崎	七野	立野	864			
	数量	面積	数量					
		0.50						
	設定年月日	56. 4. 1		終了年月日	60. 3. 31			
担当	営林局	課 係						
	営林署	経営課 造林係						
地況及び 気象	標高	方位	傾斜	基岩	土壌型	土性		
	400	NE	中	砂岩	BC	剛行土		
	深度	堅密度				地 位		
						スギ ヒノキ		
						10		

林	林令	林種	樹種	混交率	胸高直径	樹高	材積	本数	相対照度	下層植生
	23	人工	クスギ クスギ	80	14 10-24	8 7-9		1250 300		
況	設定前の施業経緯 昭和34年3月クスギ新植 昭和35～41年度 下刈実行 昭和46年度 除伐 昭和56年度 設定時除伐									
全体計画	1. 混交林施業方法の検討 (クスギ混交林) 2. 保育作業方法 (仁立本数、植栽木との間隔等試行 検討)									

- 記載要領
1. 区分は指示、自主、任意課題別とする。
 2. 全体計画欄は年度別、実施事項及び目標、また、林試等の指導関係を記入する。

試 験 地 設 定

区分 指示

宮 崎 営 林 署

(様 式 2)

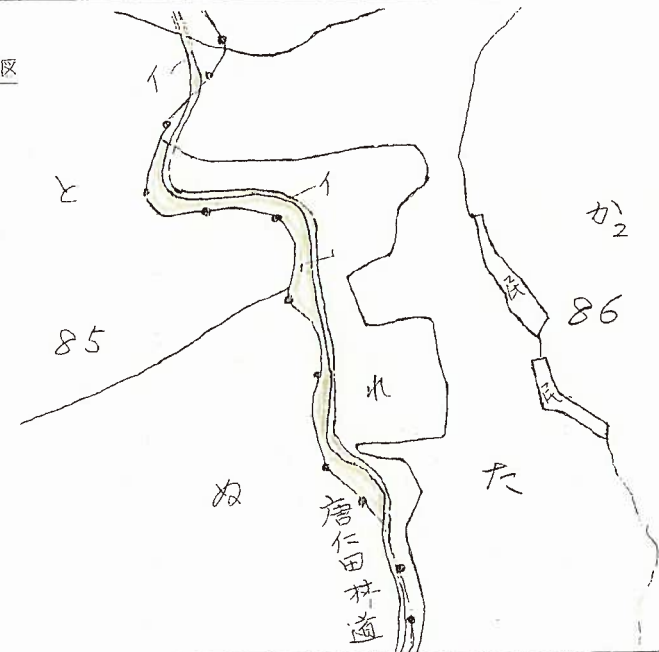
実 施 計 画

1. 植栽木と保残したいたけ原木の生育状況を観察し適当な仕立本数の検討.
2. 拡大する試験地の対象地検討

試験設定図



試験地位置図



記載要領 1. 実施計画は設定方法及び作業方法等具体的に記入する。

試験経過記録

区分 指示

宮崎 営林署

(様式3-1)

調査 担当者	年月日～年月日	官職	氏名		研究発表 印刷等の 経過	年月日	事項
	57.5. ～ 58.12.		西尾幸夫				
	59.1 ～		工大蘭 登				

試験 地 取 扱 経 過	調査年月日	作業の種類	面積	人件 延人員 金額	物 金額	役 摘要	計	摘要
	57.5.	除伐	0.50(5)					植栽木と、いたけ原木を残して他は除伐した。
	59.5.29.	標板						

- 記載要領
- 試験地取扱経過欄には設定から試験調査のため行なった作業について経費の有無にかかわらず、逐次記入すること。
 - 人件欄は臨時を裸書、基職を()書、常定を[]書とする。

試験経過記録

(様式4)

区分指示

宮崎 営林署

S. 58. 5. 植栽木に対するいばけ厚木保残木の生育阻害は認められない。

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

評価および普及計画

区分 指示

官 崎 営林署

(様式5)

- S. 57. 5. 試験地は尾筋で地位指数が低いため造林木の生育は中以下であるが、フヤコナラの生育は比較的良好である。
侵入したしいたけ原木と植栽木ともに育成し競合時臭でしいたけ原木を収穫する方法を植栽木の主伐期まで繰返す施策が得策と思われる。

(指示 課題)

昭和 57 年度 技術開発実施 報告 書

課 題	作 業 規 則	継 続	経 常 特 別	経 常	担 当	計 画 課	開 発 箇 所	日 向	期 間	昭和56年度 昭和60年度	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額	
			経 常 特 別	4-1									物件費	調査用品			千円	
題	クヌギ混交林施業法																	
目 的	北川の特用材産物である。しいけ生産は年々増加しており、既成林の原木不足に対する国産材への供給の増強は増々強まるものと思われる。杉(Cヤ)とクスギを混植し、しいけ原木生産と間伐等の組合せ、クスギのほつが更新、並に杉(Cヤ)人工林を新置場に活用することにより合理的しいけ生産技術と施業方法を確立する。																	
全 体 計 画		実 施 経 過		当 年 度 分														
				実 施 計 画				実 施 結 果				評 価 お よ び 普 及 計 画						
1. 調査方法 (1). 1列置に杉(Cヤ)とクスギを交互に植栽する。 (2). 杉(Cヤ)を2条並栽を行い、次に杉(Cヤ)を2条並栽を交互に並栽を行う。 (3). 既植栽済の林分について(1)～(2)のクスギの植栽を行う (4). 既植栽林分に天然にほうがしたクスギ成育調査 (5). その他の植栽方法 2. 保存方法 3. クスギの収穫と杉(Cヤ)間伐の合理的伐出法の検討 4. 生長量調査 5. 収穫量の調査		1. 56年度 日向署 (1). 杉とクスギの混植 面積4.00ha (2). 杉とクスギの混植 宮崎署 (1). 杉10年生に混植するクスギ、コナヒメ杉と共存させる整理伐を行う。 面積0.5ha		1. 試験地設定 (1). 植栽方法別試験地 (2). 植栽本数別試験地 2. 生長量調査 3. 保存方法及び収穫調査				1. 日向署林分 設定地内の生長量調査を実行、対象区と変更なかった。 2. 宮崎署林分 除伐後の植栽木の状況に、しいけ原木の生育は良好である。										

(指示課題)

昭和59年度技術開発実施報告書

宮崎県庁

課題	継続 新規	経 統	経 常	担 当	開 発 簡 所	立 野 口 林 業 課	期 間	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額
										物件費	役務費	人件費	計	千円
72年混交林施業法			4	造林		86日	556 ~60							
目的	スギ、フナギを混植し、いたけ原木の生産と間伐作業を組合せた合理的施業方法を確認する。 (地元振興関連技術)													
全 体 計 画		実 施 経 過		当 年 度 分										
				実 施 計 画				実 施 結 果				評 価 お よ び 其 他 計 画		
1. 混交林施業方法の 確立 (フナギ混交林)		1. 既往の人工林内に天然 に侵入した広葉樹の内、 フナギ、コナラ等のいたけ 木を保護して除伐し、植栽 木と共に生育させ原木と して利用できるまで混交林 として施業の可能性を 検討するため56年度試 験地設定。		1. 既設試験地における植 栽木と保護したいたけ 原木の生育状況を観察 し、適当な立木数の検討 2. 拡大する試験地の 対象地検討				1. 除伐後の植栽木ならび にいたけ原木の生育は良 好である。 植栽木に対する生育 障害は認められない。 2. 試験地拡大は不実行				1. いたけ原木 の利用可能		

※ (課題)欄は指示、指導管理、自主、任意別を記入する。

目標との関連欄は、延平宮林局技術開発目標(59年度計画188号)により記号で記入する(例 1-(ア))

試験経過記録(その1)

宮崎 国林署

課 題	フヌキ混交林施業法
1. 昭和56年度試験地として設定 設定前の施業経緯	昭和54年3月 フヌキ新植 “ 55年～57年 下刈実行 “ 56年度 除伐実行
1. 昭和57年5月 植栽木とフヌキ、ナラ類のいたけ原木を残し他は除伐実行。0.5ha 基転5人	
1. 昭和58～59年度は観察のみで施業や試験調査は行っていない。	

記載要領

1. 調査結果及び考察を記入する
2. 状況写真は細意整理する

課題名	クスギ混交林施業法					
課題区分	指示	開発期間	56~60	担当	宮崎宮林署	
目 的	スギ、クスギを混植し、しいたけ原木の生産と間伐作業を組合せた合理的施業法を確立する。					
新 果	宮崎地方の収穫予想表では、スギ26年生の胸高は16cmであるが試験区は12cmで、瘦地のため試験地としては不適であった。					
施 業 及 び 作 業 の 内 容	項 目	内 容	項 目	内 容	項 目	内 容
	伐採の方法					
	間 伐					
	林 齢	年				
	胸 高 直 径	cm				
	間 隔	m				
	1m当たり本数	本				
	材 質	m				
開発経過と調査内容						
1. 試験地						
① 場所		立野口有林 8611 林小班				
② 地 況		標高400m 方位NE 傾斜6~10° 土壌型BC 基岩 砂岩				
③ 林 況		スギ26年生 コナラ18年生(推定)				
④ 面 積		0.38ha				

2. 実施内容

① 昭和56年度 設定時 侵入広葉樹のうちコナラを残し除伐を実行した。

② 観 察

(ア) 試験地 設定区は尾筋の瘦地のため造林木及びコナラ共に期待通りの生育を示さないため、昭和57年度に実行した同小班の間伐から除外した。

(イ) 現状では造林木への被圧もなく、胸高径も小さいので、今後しばらくは本数調整のための間伐も必要ない。

③ 調 査

昭和61年2月 毎木調査を実施した。

評価及び普及指導

設定林分は尾筋の瘦地で生育不良のため設定期間中の施業計画は実行するに至らず、当初の目的である仕立本数、植栽木との間隔等、試行検討についても何等の結論も得るに至らなかった。

試験経過記録

10分指示

官崎 宮林署

(様式4)〜/

課題

クスカ混交林施業法

1. 当該林分は昭和46年度除伐実行の際、スギ造林地の生育の良くない尾筋一帯に侵入した広葉樹の内、コナラを残し混生林に仕立てようとしていたものを昭和56年度試験地に設定した。
2. 昭和57年度当該林小班を間伐したが、試験区は生育不良のため除外した。
3. 設定期間中は観察のみで施業は行わなかった。
4. 昭和61年2月現況調査

実測面積 0.08 ha

樹種	本数	径級	長級	材積	ha当り 本数	ha当り 材積
スギ	889	$\frac{12 \text{ cm}}{4 \sim 24}$	$\frac{9 \text{ m}}{4 \sim 18}$	18.97	2339	49.92
コナラ	627	$\frac{8}{4 \sim 16}$	$\frac{7}{4 \sim 11}$	11.02	1650	29.00
計	1516			29.99	3989	78.92

記載事項

1. 調査結果及び考察を記入する
2. 状況写真に照準照準する

真 写 況 状

指示 区分

宮崎 管林署

(様式 6)



林相 (混交状況)



林相 (混交状況)



同上



同上

真 写 況 状

指示 区分

宮崎 宮林署

(様式6)



林縁



林縁



同工